

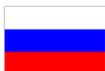


【韓国】 総合指数は 3.1%高と 4 週続伸、今週は高値警戒感が重荷か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 3.1%高と 4 週続伸。買い優勢の展開だった。週明け 23 日に節目の 2600 ポイントに乗せ、その後も 25 日を除いて連日で過去最高値を更新した。新型コロナのワクチン実用化や米政治の安定への期待から、投資家のリスク選好姿勢が続いた。時価総額の大きいサムスン電子などハイテク主力株が相場の上昇を主導した。週後半は韓国銀行（中央銀行）が 2020 年と 21 年の経済見通しを上方修正したことを受けて、国内の回復期待も買いを支えた。もともと、新型コロナ感染再拡大に対する懸念が上値を抑える場面もあった。今週は高値警戒感が重荷で、国内のコロナ感染状況が焦点になりそう。経済指標では鉱工業生産など 10 月の主要経済指標や 7-9 月期 GDP 改定値、11 月の製造業 PMI などが発表される。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は 3.1%高と 4 週続伸、今週はワクチンや原油相場が焦点か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 3.1%高と大幅に 4 週続伸。欧米株高や原油高を追い風に指数は 3 カ月ぶりの戻り高値を更新した。週明け 23 日は RTS 指数が 0.5%安と反落したが、24 日に 2.4%高と大幅反発。アストラゼネカのコロナワクチンが高い有効性を示し欧米株が上昇したことが好感されたほか、対米ドルでのルーブル高も指数を押し上げた。原油高も追い風に指数は 25-26 日も上昇した。27 日は 4 日ぶりに反落したが、週間では 1 月以来の 4 週続伸。指数は 26 日に 8 月中旬以来の 1316.57 ドルまで上昇し、1307.14 ドルで終了した。個別ではエネルギーのルクオイル、金融のズベルバンク・オブ・ロシア、資源のノリリスク・ニッケルなどが指数を押し上げた。今週もワクチン開発やコロナ感染拡大、原油相場をにらんだ展開か。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は 2.0%高と 4 週続伸、今週も経済成長観測を背景に堅調か

調か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 2.0%高と 4 週続伸。良好な経済見通しを背景に資金流入が続いた。前週まで 3 週続伸した VN 指数は、週明け 23 日も不動産株や鉄鋼株が買われて上昇。アジアにおける生産拠点として高い経済成長が期待されることやコロナワクチン開発進展を受けた欧米株高が追い風となった。VN 指数は前週の 17 日から 27 日まで 9 連騰。26 日に 2019 年 11 月 20 日以来となる 1000 ポイントを突破すると、27 日は 1010.22 ポイントで引け、同年 11 月 14 日以来、約 1 年ぶりの高値水準を回復した。個別では鉄鋼のポミナ・スチールが 39.4%高、漁業・農業のホアン・アイン・ザライ国際農業が 23.8%高と急伸。不動産のビンホームズが 5.7%高、ベトナム投資開発銀行が 3.0%高となった。今週も経済成長見通しを背景に堅調か。

▼指数チャート

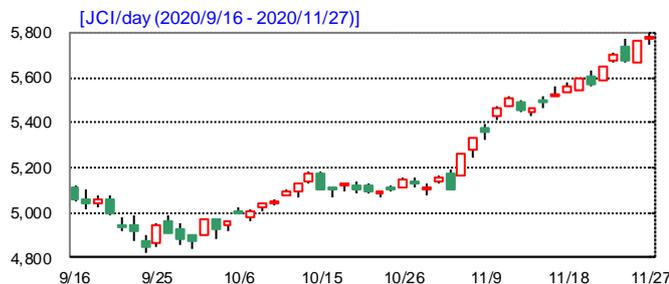


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 3.8%高、週末に終値で9カ月ぶりの高値を更新

ジャカルタ総合指数は週間で3.8%高と8週続伸。国内の重要イベントが少ない中、堅調に推移した。週初の23日は、前週末に下落した反動で金融株を中心に買い戻しが入り、前営業日比1.5%高と反発。24日も続伸した後、25日は3日ぶりに反落したが、26日は引け際の上昇が奏功し、前日比1.4%高と2日ぶりに終値で5700ポイント台に乗せた。27日も買い優勢の展開が続く、終値で9カ月ぶりの高値を更新している。今週は1日に11月のCPIが発表される予定で、前月に続き2カ月連続で前年の水準を上回るかが焦点。外部要因では、中国の11月の公式製造業PMIと財新製造業PMIが意識されそうだ。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.5%高、21年の経済成長率は4-6%に改善の見通し

ストレーツタイムズ指数は週間で1.5%高と4週続伸。週半ば以降の下落が上昇幅を縮めた。週初の23日は、貿易産業省が21年の国内経済成長率の見通しを4-6%と発表したことが買い材料視され、指数は前営業日比1.3%高と続伸。24日は前日のNYダウが反発した流れを引き継ぎ、さらに1.5%上昇した。ただ、勢いは続かず、25日に利益確定売りで反落すると、26日は10月の鉱工業生産が前年同月比0.9%減と、3カ月ぶりに前年の水準を下回った影響で続落。27日も買い材料に乏しく、小幅に下落して取引を終えている。今週は3日に11月の製造業PMI、4日に10月の小売売上が発表される予定。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET指数は 3.5%高、1週間を通じて終値で1400ポイント台を維持

SET指数は週間で3.5%高と4週続伸。1週間を通じて終値で1400ポイント台を維持した。23日は10月の貿易収支（通関ベース）が市場予想を上回った上、英アストラゼネカが開発中の新型コロナウイルスワクチンの高い有効性が確認された効果で、指数は前営業日比2.2%高と4日続伸。24日は銀行株とエネルギー株が下げを主導し、指数は前日比1.3%安と反落したが、25日に買い戻されると、週末まで3日続伸した。27日に発表された10月の鉱工業生産は、前年同月比0.5%減と市場予想から上振れしている。今週は4日に11月のCPIが発表される予定で、9カ月ぶりに前年同月の水準を上回れば好材料。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.9%高、21年度予算案の可決を好感

クアラルンプール総合指数は週間で0.9%高と4週続伸。週後半に終値で1600ポイントを回復した。週初の23日は原油価格が上昇した効果で指数は続伸したが、24日は累計で2000人以上の従業員が新型コロナウイルスに感染し、生産に影響が出ているゴム手袋大手のトップ・グローブが売られたほか、パーム油価格の下落も痛手となり、前日比1.2%安と反落。一方、25日は前日のNYダウが3万ドルに到達した流れで反発すると、26日は連邦議会下院で21年度の予算案が可決され、ムヒディン首相が退陣を免れたことが好感されて続伸した。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因に左右される展開か。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。